

岡山県 くりにん

No.58
2019.1



一緒にがんばろう倉敷・総社・岡山、がんばろう西日本、がんばろう日本。

災害復興プロジェクト、 スタート。

「共に働く」という支援のカタチです。

倉敷市、総社市の災害廃棄物を可能な限り、
リサイクル資源として活用することで、自然負荷を低減させるプロジェクトです。

一緒に
働きましょう。
勤務地は
水島です。

スタッフ急募!

※イメージ写真

賃金 時給 **1,400円**～

資格 不問

※平成30年7月豪雨災害の被災者、特に倉敷市・総社市の罹災証明書をお持ちの方優先。

業務 廃棄物の選別作業
※屋内での作業です。屋外作業員も同時募集中。

勤務 8:30～17:00(実働7時間=作業+送迎、休憩90分)
※JFEスチール西門付近からのバス送迎につき、送迎時間も給与対象

休日 週休2日制(日祝休み、当社規定のカレンダーによる)

勤務地 岡山県災害廃棄物処理業務共同企業体 災害廃棄物二次仮置場
[所在地/倉敷市水島川崎通1丁目20(水島ゴルフリンクス隣)]

期間 2019年1月～2020年3月末(予定)

待遇 JV構成メンバーの企業に所属していただきます。



岡山県災害廃棄物処理業務共同企業体

お問い合わせ **TEL.050-5433-5260** (担当/持永)

ホームページからも
受け付けています

OS-JV

検索



◆年頭あいさつ◆

- 西日本豪雨災害を体験し今後の災害廃棄物処理の在り方考える 一般社団法人岡山県産業廃棄物協会会長 大塚 雅司 2
新年の御挨拶 岡山県環境文化部 部長 片山 誠一 3
新年のご挨拶 ～持続可能な社会の構築に向けて～ 岡山市環境局長 門田 和宏 4
新年のごあいさつ 倉敷市環境リサイクル局 局長 黒田 哲朗 5
平成31年年頭所感 公益社団法人全国産業資源循環連合会 会長 永井 良一 6

◆事業報告◆

- 岡山県産業廃棄物協会の第7回通常総会が開催 7
全国産業資源循環連合会定時総会開催。協会員名が表彰される。 9
産業廃棄物と環境を考える全国大会 金沢市で開催 10

◆緊急特集 一西日本豪雨一 ◆

- 「西日本豪雨における岡山県産業廃棄物協会の災害廃棄物処理をふりかえって」 11

◆現地レポート◆

- 災害廃棄物収集運搬（真備町集積場から仮置き場へ搬送）車両の配車・進捗管理業務 20
真備地区災害解体廃棄物受入管理業務を通して 22
総社市西公園仮置き場の搬出作業 ～倉敷市真備町井原線高架下の撤去作業 23
井笠支部における災害廃棄物処理支援について ～井原市、笠岡市の被災物切断処理～ 25
平成30年度西日本豪雨総社市ゴミ運搬レポート 26

◆行政NEWS◆

- 産廃の違法運搬を食い止める！ 抜き打ち検査を実施しています 27
PCB使用安定器の早期処理に御協力ください！ 28

◆支部ニュース◆

- 岡山東支部 視察研修レポート 29
第12回岡山東支部地域 環境クリーン化事業レポート 30
岡山西支部・岡山中央支部 合同環境クリーン作戦 31
倉敷南支部 環境クリーン作戦 32
井笠支部環境クリーン作戦 33
備北支部 新見地域クリーン作戦 34
第29回津山支部総会・視察研修会開催 35
第24回津山支部 環境クリーン作戦 36

◆青年部のページ◆

- 第14回 親子エコツアー 37
平成30年度 青年部視察研修 38

◆事務局だより◆

- 平成30年度環境おかやま大賞（岡山県知事表彰）の受賞 39
新規入会者の紹介 39
表紙写真ガイド／編集後記 41



*右下のマークは、産業廃棄物適正処理のマスコット「てき丸君」です。

西日本豪雨災害を体験し今後の災害廃棄物処理の在り方を考える

一般社団法人岡山県産業廃棄物協会会長 大塚 雅司



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては健やかに新しい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

日頃より皆様方には、循環型社会の形成に向け、廃棄物の適正処理やリサイクルの推進等に取り組んでいただき厚く御礼申し上げます。

また、昨年7月の西日本豪雨で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年の西日本豪雨災害では、岡山市、倉敷市を始め県下の大半の市町村が被災され災害廃棄物の処理に取り組まれました。中でも、既存の一般廃棄物処理体制では対応しきれない倉敷市、総社市、笠岡市、井原市及び矢掛町の5市町から、協定に基づく災害廃棄物処理の協力要請が県を通じて当協会にあり、当協会は7月から11月までの約4か月間、会員の皆様の協力を得て実施しました。

今まで経験したことのないごみの量と性状から、地元支部だけでは対応できず協会をあげて取り組みとなりました。洪水災害では家からの持出しごみが大半を占めるため、粗大ごみ系を運搬しやすい車両を優先して配車しましたが、会員皆様のご理解・ご協力をいただき収集運搬業務を無事終えることができました。また、倉敷市等から要望のあった持出しごみの最終仮置場及び解体廃棄物の仮置場の運営管理業務については、緊急対応期間内に終わらず、プロポーザルで決定した共同企業体に業務を引き継いでいます。

当協会では、過去の災害時に協会として対応した経験及び大規模災害を踏まえた廃棄物処理法改正を踏まえ、協定に基づく協会内の災害廃棄物処理業務マニュアルを作成していましたが、今回の体験を通じ、今後ますます広域化・大規模化していく災害へ対応できるよう見直さなければならないと痛感しました。また、災害協定そのものについても、行政機関と協議しながら、点検・見直しを進めてまいりたいと思います。

昨年7月以後、協会は災害業務を最優先に取り組み、通常業務が思うように実施できませんでしたが、この場を借りましてお詫び申し上げます。あらためて我々を取り巻く環境をみますと、産業廃棄物処理業界は、事業者から委託された廃棄物の処理を行うサービス業から、廃棄物の適正処理を基盤とした資源循環産業へと今大きく変わろうとしています。

当協会も適正処理と資源循環を目指す業界団体の一員として、優良認定の促進、安全衛生の確保、人材育成等を推進して参りますので、会員皆様のご理解とご協力、また関係各位のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新年の御挨拶

岡山県環境文化部 部長 片山 誠一



明けましておめでとうございます。

一般社団法人岡山県産業廃棄物協会会員の皆様におかれましては、平素から本県の環境文化行政の推進に多大な御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

貴協会におかれましては、産業廃棄物の適正処理やリサイクルの推進、環境保全に関する活動に幅広くかつ熱心に取り組まれており、深く敬意を表します。

さて、平成30年7月豪雨では、河川の決壊などにより60人を超える尊い人命が失われるとともに、住家被害は全半壊が8千棟を超えるなど、本県でこれまでに経験したことのない規模の被害により、推計で約30万トンに上る災害廃棄物が発生し、住民生活や経済活動へ深刻な影響を及ぼしています。

こうした中、貴協会は、本県との「災害時における廃棄物処理の協力に関する協定」に基づき、発災直後から災害廃棄物の撤去・処理に団結して取り組まれるなど、被災地の復旧・復興に多大な御高見をいただいていることに心よりお礼申し上げます。

本県では、この豪雨災害で得られた教訓を踏まえ、「岡山県災害廃棄物処理計画」などを見直し、今後発生するとされている南海トラフ巨大地震や頻発する豪雨災害等に備えることとしておりますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

また、昨年改正廃棄物処理法の施行に伴い、使用済電子機器に対する適正処理が義務付けられるなど廃棄物処理を取り巻く状況が大きく変化しておりますが、廃棄物の適正処理や循環型社会を形成するためには、行政のみならず、県民、事業者等がそれぞれの立場で取組を進めることが重要であり、とりわけ、豊富な経験や人材を有する貴協会と会員皆様方の御協力が不可欠であります。

最後になりましたが、今後とも地域に密着した環境保全の取組がより一層推進されますことを御期待申し上げますとともに、貴協会と会員皆様方の益々の御発展を心から祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶 ~持続可能な社会の構築に向けて~

岡山市環境局長 門田 和宏



平成31年の新春を迎えるにあたり、謹んでお慶び申し上げます。

一般社団法人岡山県産業廃棄物協会会員の皆様には、日頃から本市の廃棄物行政へのご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また貴協会におかれましては、廃棄物の適正処理及びリサイクルの推進、地域クリーン作戦や環境学習など様々な活動を通じて循環型社会の形成にご尽力されており、心から敬意を表します。

さて、平成最後の新春を迎えるにあたり、来し方を振り返りますと、近年、SDGsが人類社会共通の目標とされるなど、「持続可能な開発」という考え方が広く浸透してきたことは、感慨深いものがあります。

誤解を恐れずに単純化して言えば、かつては、環境重視は経済成長の足かせになりかねないと思える向きも多くありましたが、今や、環境への配慮なくして成長はあり得ないという考え方がすっかり定着しつつあります。

その背景にあるのは、地球温暖化問題等の深刻化であり、我が国においても、気候変動への対応策が、いまや自治体レベルでも求められています。

昨年、岡山市では、平成に入って最大規模の災害となる平成30年7月豪雨に見舞われましたが、この災害の要因としても、地球温暖化の影響が指摘されています。

岡山市では、こうした時代の潮流の中で、「豊かな自然と調和した持続可能なまち 岡山」を目指す環境像に掲げ、低炭素・循環型社会の構築、生物多様性保全などの環境との共生を進めることとしています。

具体的な政策として、低炭素社会の構築に向けては、「岡山市地球温暖化対策実行計画」において、2030年度に2013年度比で26%の温室効果ガス削減目標を設定しておりますが、市としても、次世代エネルギーである水素の利活用をより推進するために、本年、公用車に燃料電池自動車を導入します。

循環型社会の構築に向けては、食品ロスの削減、事業系厨芥類のリサイクルに向けた取り組みを進めていきます。

環境との共生に向けては、岡山市環境影響評価条例を4月から施行し、大規模な開発事業の環境に与える影響について、あらかじめ調査・予測・評価等を行うことで、開発と環境保全の調和のとれた持続的なまちづくりを進めてまいります。

こうしたことに加えて、今回の災害対応の経験を踏まえ、災害が発生した場合に備えて、災害ごみを迅速に収集・処理し、より早く市民生活の再建と環境衛生の確保をするために、災害対応に対する体制やマニュアル等を整備するとともに、貴協会並びに会員の皆様との連携を強化してまいりたいと考えています。

最後に、本年が災害による被害がなく、環境行政が大いに進展することを期待するとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

倉敷市環境リサイクル局 局長 黒田 哲朗



平成31年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

一般社団法人岡山県産業廃棄物協会におかれましては、産業廃棄物の適正処理やリサイクルの推進はもとより、業界関係者の指導・育成や普及・啓発などの様々な活動を通じて循環型社会の形成の推進に御尽力されており、心から敬意を表します。また、貴協会並びに会員の皆様におかれましては、平素から倉敷市の産業廃棄物行政に対し、格別なる御理解、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成30年7月豪雨では、西日本を中心に広範囲にわたって被害が発生し、本市真備町におきましては、小田川等の堤防の決壊により、町域の1/4に相当する約1,200ヘクタールの面積が、最大5m程度の深さで冠水し、50名を超える尊い人命が失われるという未曾有の被害となりました。この水害により、片付けごみ約4万3千トン、土砂混じりがれき約1万5千トン、家屋解体廃棄物約16万8千トン、合計約22万6千トンもの多量の災害廃棄物が発生したと推計しています。この量は本市で発生する年間の一般廃棄物量を上回る量であり、自然災害の恐ろしさを改めて思い知らされました。

発災直後においては、自宅の前や道路、近所の広場・公園など広範囲に片付けごみが排出され、一時は町域が災害廃棄物であふれる状態となりました。この際、本市から岡山県への支援依頼を行い、岡山県と貴協会が締結していた「災害時における廃棄物処理の協力に関する協定」に基づき、貴協会と本市が処理委託契約を締結することにより、発生した災害廃棄物の収集運搬等を迅速に進めていただきました。加えて自衛隊、建設業協会、他自治体等の多くの関係者の協力があり、発災から約2か月で、衛生的な環境の確保には欠かせない住宅地周辺での災害廃棄物の撤去を完了することができました。貴協会並びに会員皆様のご尽力及びご協力に対し、この場を借りまして厚く御礼を申し上げます。

今後、公費解体で発生する家屋解体廃棄物と合わせ、集められた災害廃棄物につきましては、岡山県への事務委託での処理が進められることとなっており、2020年度内の処理完了を目指しております。

本市の施策の推進、ひいては循環型社会の形成、さらには環境問題への対処のためには貴協会並びに会員の皆様方のお力添えが必要ですので、昨年引き続きご理解とご協力をいただければ幸いです。

最後になりましたが、貴協会の益々の御発展と会員の皆様方の御健勝、並びに御多幸を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

平成31年年頭所感

公益社団法人全国産業資源循環連合会 会長 永井 良一



一般社団法人岡山県産業廃棄物協会の皆様、明けましておめでとうございます。旧年中は、当連合会の諸事業に皆様の多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、2月4日に石井邦夫前会長が急逝されるという、当連合会にとって大変な痛手となる残念な出来事がありました。石井前会長のあとを受け、この約1年間、会長の職務に全力で専念することができましたのは、各都道府県協会をはじめ、多くの関係者の皆様のご支援のお蔭と心より感謝しております。

さて、当連合会は昨年4月に「全国産業廃棄物連合会」から「全国産業資源循環連合会」に名称を変更し、初めての新年を迎えました。この名称変更は、一昨年11月の「資源循環を促進するための産業廃棄物処理産業の振興に関する法律案大綱」の公表とともに、産業廃棄物の適正な資源循環を担い、循環型社会の形成に取り組む本業界の決意の表明であります。

本業界を取り巻くここ数年の動きを振り返りますと、まず平成28年3月に廃棄物処理法改正に関する業界要望の連合会意見書を環境省へ提出しました。この意見書の基本的な視点は、「産業廃棄物処理業の振興を図るために業界が必要と考える規制の合理化」であり、現在もこの業界要望の実現に向け継続して取り組んでいます。

この廃棄物処理法の改正と並行する形で、本業界の振興策を検討するためのタスクフォースを設置し、平成26年8月から約3年にわたり振興法等の立法化を目指して議論を進めてきました。この成果が、前述の振興に関する法律案大綱でございます。

一方、環境省は、慶応大学の細田教授を座長とする「産業廃棄物処理業の振興方策に関する検討会」を平成28年11月に設置され、翌29年3月に「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」を取りまとめられました。

さらに政界におかれましては、平成25年10月に産業・資源循環議員連盟が設立されました。同議員連盟の活動方針には、「資源循環の促進のため産業廃棄物処理業の振興に関する調査研究」を進めることが掲げられております。その後、議員連盟では、昨年7月に資源循環促進プロジェクトチームを設置され、当面の重要な課題である「人材育成」、「労働安全衛生」、「再生品の利用拡大」についての検討が進められています。

新年早々に来年のことを申し上げると、鬼に大笑いされるかもしれませんが、来年2020年は廃棄物処理法が制定されて50年、すなわち産業廃棄物処理業が誕生して半世紀を迎えます。

この大きな節目を前に、本年は「産業廃棄物処理業の振興」のさらなる具体化に取り組むなど、2020年以降の次の半世紀に向けた礎の年にしたいと考えております。皆様のご指導ご鞭撻を頂戴できれば幸に存じます。

結びに、この一年が皆様にとりまして、素晴らしい年でありますようお祈り致しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

岡山県産業廃棄物協会の 第7回通常総会が開催

～ 23名が協会長表彰を受賞、3名が新たな役員に就任～

平成30年5月24日、岡山市中区の岡山プラザホテルで当協会の第7回通常総会が開催されました。来賓として、岡山県環境文化部循環型社会推進課の國重課長様、岡山県議会環境文化保健福祉委員会の上田委員長様、岡山県警察本部生活安全部生活環境課の山本課長様、岡山市環境局の石井次長様、倉敷市環境リサイクル局の大江副参事様にご臨席をいただき、温かい激励のお言葉を頂戴しました。

表彰式では、長年にわたり功労のあった23名に会長から表彰状が授与され、受賞者を代表して東備支部の(有)和気環境サービスの松本公子様が謝辞を述べられました。

議案審議では、平成29年度の事業報告及び収支決算、平成30年度の事業計画及び収支予算が、原案どおり承認されました。また、任期満了に伴う役員の改選があり、新たに副会長として倉敷南支部長の高谷耕治様及び津山支部長の寺門洋様、新たな理事として岡山東支部の木下聖士様、倉敷南支部の富本泰司様、井笠支部の坂川晃一様が就任され、会長1名、副会長3名、専務理事1名、常任理事6名、理事17名及び監事2名の役員30名体制で、これから2年間、協会運営をすることとなりました。



●協会長表彰受賞者名簿

○功労者（4名）

- 岡山西支部 松田 次歳
株式会社西日本マックス
- 岡山中央支部 造田 優男
有限会社造田組
- 東備支部 松本 公子
有限会社和気環境サービス
- 津山支部 原田 明彦
中国防災工業株式会社



○優良事業所（7社）

- 岡山西支部 株式会社岡清組
- 岡山西支部 藤クリーン株式会社
- 岡山中央支部 株式会社西日本アチューマットクリーン
- 東備支部 有限会社豊田建運
- 倉敷支部 株式会社カンガイ
- 備北支部 株式会社三美産業
- 津山支部 勝栄建設株式会社



○優良従事者（12名）

- 岡山東支部 川上 芳和
株式会社日本資源開発社
- 岡山東支部 渡辺 睦男
内海産業株式会社
- 岡山西支部 藤尾 幸信
株式会社蓬萊組
- 岡山西支部 森本 誠司
彦崎通運株式会社
- 岡山中央支部 石原 慎祐
有限会社吉美
- 東備支部 浦上 忠士
キョクトウ有限会社
- 倉敷支部 小村 泰良
JFE環境サービス株式会社倉敷事業所
- 倉敷支部 中桐 浩一
倉敷企業合資会社
- 倉敷南支部 黒瀬 章男
東洋碎石工業株式会社
- 倉敷南支部 平松 政男
福栄産業株式会社
- 井笠支部 藤田 勝浩
有限会社藤充建設工業
- 津山支部 田淵 貴之
有限会社津山清美社



全国産業資源循環連合会定時総会開催。 協会員7名が表彰される。

平成30年6月12日、東京都港区「明治記念館」において(公社)全国産業資源循環連合会の第8回定時総会が開催され、当協会からは正副会長及び受賞者等12名が参加しました。

「全国産業廃棄物連合会」から「全国産業資源循環連合会」に名称変更後初めての総会で、平成29年度事業報告及び収支決算報告、平成30年度事業計画及び収支予算の審議後、役員改選が行われ、当協会の大塚会長が引き続き中国ブロックの代表として連合会理事に就任しました。

表彰式では、当協会から7名の方が連合会会長より表彰を受けました。

講演会では、フリーアナウンサーで健康・防災・安全管理アドバイザーの小久保春代氏が「これからの健康管理～運動と脳トレで活性化させましょう～」と題し、職場における安全衛生に繋がる話を分かりやすく伝えてくれました。



キーワードは、“その日の疲れはその日に解消！”

◆平成30年度全国産業資源循環連合会会長表彰受賞者

- 功労者 岡山西支部 井上 實 (有)井上設備
- 地方功労者 岡山中央支部 小野勝己 小野建設(株)
- 岡山中央支部 石原恵一 (有)吉美
- 地方優良事業所 備北支部 (株)平松運輸
- 津山支部 大成ロテック(株)津山合材工場
- 優良従事者 岡山中央支部 大賀謙祐 (株)デベロップ岡山
- 倉敷南支部 片岡秀幸 (株)高谷建設



産業廃棄物と環境を考える全国大会 金沢市で開催

平成30年11月16日、(公社)全国産業資源循環連合会等主催の「第17回産業廃棄物と環境を考える全国大会」が石川県金沢市で約650名の参加者のもと開催されました。

当協会は、西日本豪雨災害に伴う廃棄物処理業務の終盤を迎える頃で、正副会長等7名が参加しました。

開会式では、来賓として臨席いただいた環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課の成田課長から、循環型社会形成に向けた産業廃棄物処理業振興方策の話があり、続いて石川県の副知事から歓迎の挨拶がありました。

環境大臣表彰では、循環型社会形成推進功労の産業廃棄物関係事業功労者31名が表彰され、当協会からは会長の犬塚雅司様、津山支部所属理事の田口芳美様の2名が目出たく受賞され、犬塚会長は受賞者代表謝辞を述べられました。

今年の大会テーマは「資源循環」で、早稲田大学大学院環境・エネルギー学科の小野田教授より「A

I・IoTの活用と資源循環」の基調講演と、「資源循環の促進と排出事業者責任」と題して、産官学の代表によるパネルディスカッションがありました。この全国大会の主催幹事団体の「全国産業廃棄物連合会」は、平成30年4月「全国産業資源循環連合会」と名称を改め、産業廃棄物処理業界は適正処理のみでなく資源循環を促進する業界へ変わっていかうという強いメッセージを感じました。

来年は近畿ブロックの兵庫県で開催されます。





緊急特集

— 西日本豪雨 —



特集

「西日本豪雨における岡山県産業廃棄物協会の
災害廃棄物処理をふりかえって」

一般社団法人岡山県産業廃棄物協会
専務理事兼事務局長 岩本 充博

平成30年7月に発生した西日本豪雨災害により、岡山県下の多くの市町村では災害廃棄物処理が急務となりました。過去に経験したことないごみの量と排出形態から、既存の一般廃棄物処理体制では対応できない市町村は、他の協力を得ながら処理を進めることとなりました。

当産業廃棄物協会は、平成17年に岡山県と「緊急時の災害廃棄物処理の協力に関する協定」を結んでいます。この協定に基づく要請が、倉敷市、総社市、矢掛町、井原市、笠岡市の5市町からあり、協会は7月12日から11月29日まで災害廃棄物処理業務に取り組みました。自治体にとっても、協会にとっても、大規模災害を踏まえた廃棄物処理法改正後のはじめての対応となりました。

◆ 初動対応

7月9日夕方、岡山県を通じ、倉敷市から協定に基づく災害廃棄物処理の協力要請が協会事務局にあり、会長と協議のうえ、翌10日に県と市と協会で今後の処理対応について事務レベルの打合せを行い、翌11日午後、県を調整役として市と協会（支部役員と事務局）で要請内容の協議・確認を行いました。当協会では、過去の災害時に協会が災害廃棄物の現地処理（破碎・選別）及び処分先への運搬を行った経験をもとに、「協定に基づく災害廃棄物処理業務マニュアル」を作成していましたが、このたびの豪雨災害は、被害の規模、廃棄物の発生量とも想定をはるかに超えており、市は「被災地内のごみの撤去」を最優先に取り組むこととし、積込重機及び運搬先・処分先は市が確保するので、協会にはできるだけ多くの運搬車両の提供を明日からお願いしたいとの要請内容でした。

被災地の道路や集積所は家からの持出ごみであふれ、道路の通行を妨げている状況から、7月12日は地元支部の役員の車輛で作業を行い、積込場所、運搬先、運搬経路、配車できる車種等を確認し、全会員に対し会長名で参加車両の協力依頼をFAXしました。そして、翌7月13日から4t～10tの箱ダンプ及びヒアブを中心に配車していきました。

当初13台でスタートした一日の配車台数は、7月末までに30～40台、8月には60～80台と増えていきました。参加車両は、会社業務の少ない土日祝祭日に多く、ピーク時には80台を超え、集合場所の駐車場の確保はもとより、配車指示する事務局にとっても、現地で受付や作業場所を指示する地元支部にとっても、大変な作業となりました。

◆ 二次仮置場の受入準備

被災地内の災害廃棄物の収集が進むにつれて、処分を前提した二次仮置場の確保が必要となり、倉敷市のほか、総社市、矢掛町から要請を受けた県は、(公財)岡山県環境保全事業団水島処分場埋立跡地11haを候補地として調整を進め、当協会は、7月25日からの受入開始に向け、飛散防止ネットフェンスの設置、敷鉄板の布設、現場事務所の設置、重機・人員の配置等を行いました。この仮置場への搬入にはJFEスチール(株)西日本製鉄所の構内を通行する必要がありましたが、JFEスチールの協力により、手続きの簡素化を図っていただきました。

搬入は、被災地の一次仮置場にごみの集積が終わった矢掛町、総社市から始まりました。搬入に際しては、二次仮置場受入管理票(簡易マニフェスト)を使用し、計量は事前に他の場所で行い対応しました。

倉敷市はごみ量が多く、運搬の効率から一次仮置場で受入れていましたが、自衛隊が撤退するにあたり多量のごみの受入先が必要となり、急遽7月31日から二次仮置場に搬入することとなりました。作業の効率性と自衛隊車両の特殊性から計量を行わず搬入することとなり、自衛隊撤退後も倉敷市の搬入は計量なしで受け入れることとなりました。

このシーズンは台風の襲来が多く、収集運搬作業は中止となっても、仮置場では廃棄物の飛散防止の作業対応が余儀なくされました。

◆ 対策本部の設置

二次仮置場の設置に先立ち、協会では7月17日に緊急常任理事会(正副会長、専務理事、支部長による会議)を開催し、協会内に対策本部を設け、協定に基づき協力要請のあった倉敷市の収集運搬業務、仮置場の運営管理業務、総社市の収集運搬業務、井原市の反物破碎処理業務、笠岡市の豊破碎処理業務等への対応方針及び実施体制等を協議し、7月24日の理事会の承認を経て実行していきました。

実施体制は、地元支部を中心とし、被害の大きい倉敷市は全県体制で臨み、総社市は倉敷市と同じ支部のため隣接する支部が応援する体制としました。なお、岡山市からは今回協定に基づく要請はありませんでしたが、岡山市の一般廃棄物処理業者でもある協会会員の多くは、岡山市からの協力要請に個別に対応していました。

対策会議は、本部会議(常任理事会レベル)、全体会議(理事会レベル)、業務別打合せ会議など週に1回程度開催し、現状報告と今後の対応、見積り単価や経費見込み等を協議していきました。

◆ 実施業務の概要

○倉敷市真備町における収集運搬業務

期 間：7月12日～10月20日

内 容：市の指示による持出ごみの撤去、集積所から一次仮置場への運搬、一次仮置場から二次仮置場への運搬、井原線高架下の重機による積込(8月1日～8月20日)

体制：4 t～10 t ヒアブ(延182台)、4 t～10 t 箱ダンプ等(延3,228台)
積込重機(井原線高架下作業)延95台

備考：事業団仮置場搬入(8月2日～)、10 t 級車輛限定(8月25日～)

○(公財)岡山県環境保全事業団水島処分場内仮置場(二次仮置場)の運営管理業務

期間：7月23日～11月29日(11月29日以降は県が委託した共同企業体に引き継ぎ)

面積：第1仮置場1ha、第2仮置場4ha、第3仮置場6ha(合計11ha)

内容：倉敷市、総社市、矢掛町の災害廃棄物の受入管理

体制：管理者2名、重機2～7台、作業員数名、事務員2～3名、交通誘導員4～6名

管理：搬入車両ごとに受入管理票を使用

備考：倉敷市分は計量なし。自衛隊搬入分を含む。

○総社市西公園仮置場(一次仮置場)からの運搬業務

期間：7月30日～8月4日

体制：10 t 箱ダンプ等(延54台)、積込重機4台

運搬先：事業団仮置場、総社市下倉処分場(がれき類)、吉備路クリーンセンター(家電類)

計量：水島処分場の計量機

○総社市下倉処分場仮置場(一次仮置場)からの運搬業務

期間：10月2日～10月29日

体制：10 t 箱ダンプ(延222台)、積込重機3台

計量：総社市下倉処分場の計量機

○倉敷市フラワーフィールド仮置場(一次仮置場)の運営管理業務

期間：8月20日～11月28日(11月29日以降は県が委託した共同企業体に引き継ぎ)

内容：解体廃棄物の受入管理、木くず及びがれき類の委託処分

体制：管理者1名、重機8～14台、特殊作業員2名、作業員2～3名、事務員3～4名

搬入量：搬入量 約45,000 t、搬出量 約29,000 t

処分先：木くず9社(10 t 箱ダンプ延1,050台)

がれき8社(10 t 平ダンプ延2,746台)

○笠岡市里庄清掃工場仮置場(一次仮置場)における昼の焼却前破碎業務

期間：8月27日～9月20日

体制：バックホウ3台(カッター2台)、ダンプ1台

処理量：約111 t

○井原市炭焼公園仮置場（一次仮置場）からの反物の運搬及び井原クリーンセンターにおける焼却前切断業務

期 間：9月11日～9月26日

体 制：バックホウ2台（カッター1台）、ダンプ1台、作業員 数名

処理量：約150 t

○笠岡市粗飼料供給基地仮置場（一次仮置場）における選別、運搬、処分業務

期 間：9月12日～10月22日

体 制：バックホウ1台、ヒアブ2台、ダンプ1台、パッカー1台、作業員 数名

処分先：市の清掃工場・リサイクルセンター、再生事業場、中間処理場、最終処分場

処理量：約123 t

◆ おわりに

会員の皆様、本当にありがとうございました。

災害業務に参加いただいた方も、参加できなかった皆様も、協会からの声掛けに応じていただき心より感謝申し上げます。

当協会は、過去の災害対応の経験をもとに、今回はじめて協会が受託者となって、会員の皆様の協力を得て災害廃棄物処理事業を実施させていただきましたが、発生直後の混乱の中、初動対応では皆様に的確な情報を迅速に提供することができず申し訳ありませんでした。

また、委託契約をはじめとする各種手続きが遅れ、参加いただいた方への支払が大幅に遅れ、大変ご迷惑をおかけしました。

当協会は、災害協定に基づく業務として災害廃棄物処理に取り組み、収集運搬業務は完了しましたが、仮置場の運営管理業務は業務途中で緊急随契期間が到来したため、県がプロポーザルで決定した共同企業体に業務を引き継ぐこととなりました。

近年、異常気象が進む中、「災害は忘れたころやってくる。」から「大きな災害がいつでもやってくる。」時代となりました。平成17年に締結した岡山県との「災害廃棄物処理の協力に関する協定」、また平成29年に作成した当協会の「協定に基づく災害廃棄物処理業務対応マニュアル(案)」は、過去の対応経験を基にして作られています。今回の西日本豪雨災害を通じ、様々な問題点や課題も見えてきました。この体験を踏まえ、今後、関係行政機関と協議調整を進め、より実効性・実行性のあるものに見直していきたいと思っていますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

～災害発生時に協会として、何ができるのか。何をしなければならないのか。～

県内でもっとも大きな被害を受けた倉敷市の「災害廃棄物処理実行計画(抜粋)」を次頁へ掲載します。

(注) この特集コーナーで記載している数値等は、現在協会において把握しているもので、確定された数値等ではありません。

第2章 災害廃棄物等の概要及び処理推計量

1 対象地域

本計画の対象地域は、図-1に示す本市の浸水範囲とし、倉敷市内において平成30年7月豪雨により災害廃棄物等が発生した地域を対象とする。図-2に発災後の被災状況を示す。



図-1 対象地域



図-2 発災直後の被災状況

平成30年9月「倉敷市災害廃棄物処理実行計画」抜粋

2 被災状況の概要

倉敷市では、小田川等の決壊による浸水被害により図-3及び表-1のとおり甚大な被害が発生した。



図-3 平成30年7月豪雨による災害廃棄物等の状況

表-1 平成30年7月豪雨による被害状況（平成30年8月7日時点）

区分	戸数（棟）	備考
全壊	3,970	調査継続中 (戸数には非住家を含まない)
半壊	856	
一部損壊	347	
合計	5,173	

※本計画の災害廃棄物等の発生量の推計は、8月7日時点の数値を基に算出している。

4 仮置場の設置及び管理

(1) 仮置場の設置

復旧・復興を軌道に乗せるために、支障となる災害廃棄物等を市民の生活圏から速やかに除去しなければならない。また、再資源化を図りながら効率的に処分を進めるための仮置き、選別の場所として、以下の一次仮置場・二次仮置場を設置する。

表-5 一次仮置場及び二次仮置場の定義

	目的・定義	住民からの受入
集積所	・個人の生活環境・空間の確保・復旧等のため、被災家屋等から災害廃棄物等を、被災地内において、一時的に集積している場所	現在は一次仮置場への搬入を基本としている。
一次仮置場	・処理前（リユース・リサイクルを含む）に、仮置場等にある災害廃棄物等を一定期間、粗選別・保管しておく場所	一部可
二次仮置場	・一次仮置場での分別が不十分な場合、再選別を行うまでの間、保管しておく。 ・仮設破砕機の設置及び処理作業（分別等）を行うための用地 ・中間処理施設の能力以上に搬入される災害廃棄物等の保管場所 ・埋立物や復興資材を処分先・利用先へ搬出するまでの一時的な保管場所	不可

資料：倉敷市災害廃棄物処理計画（平成29年2月）より一部修正・加筆

表-6 仮置場一覧

区分	仮置場名	面積 (m ²)
集積所	真備町内に 500 ヶ所程度	
一次仮置場	吉備路クリーンセンター	15,000
	マービーふれあいセンター	7,000
	真備浄化センター	5,000
	呉妹小学校	8,000
	真備東中学校	15,000
	真備中学校	8,000
	真備陵南高校	7,000
	西部ふれあい広場	15,000
	玉島E地区フラワーフィールド	20,000
	増原公園	7,000
	玉島の森	15,000
合計	122,000	
二次仮置場	岡山県環境保全事業団水島処分場*	110,000

*：水島処分場内において二次仮置場を3区画設置（6ha、4ha、1ha）

第4章 災害廃棄物処理方法

1 処理対象廃棄物

処理対象とする災害廃棄物等は、被災現場から発生した下記に示すものとする。

- ・片付けごみ（水害にあった粗大ごみ（宅地内、路上や高架下等に集積された災害廃棄物）等）
- ・家屋解体廃棄物（全壊等の家屋部材等）
- ・土砂混じりがれき

2 廃棄物の処理方法

(1) 処理フロー（土砂混じりがれき含む）

災害廃棄物等の処理フローを図-6に示す。

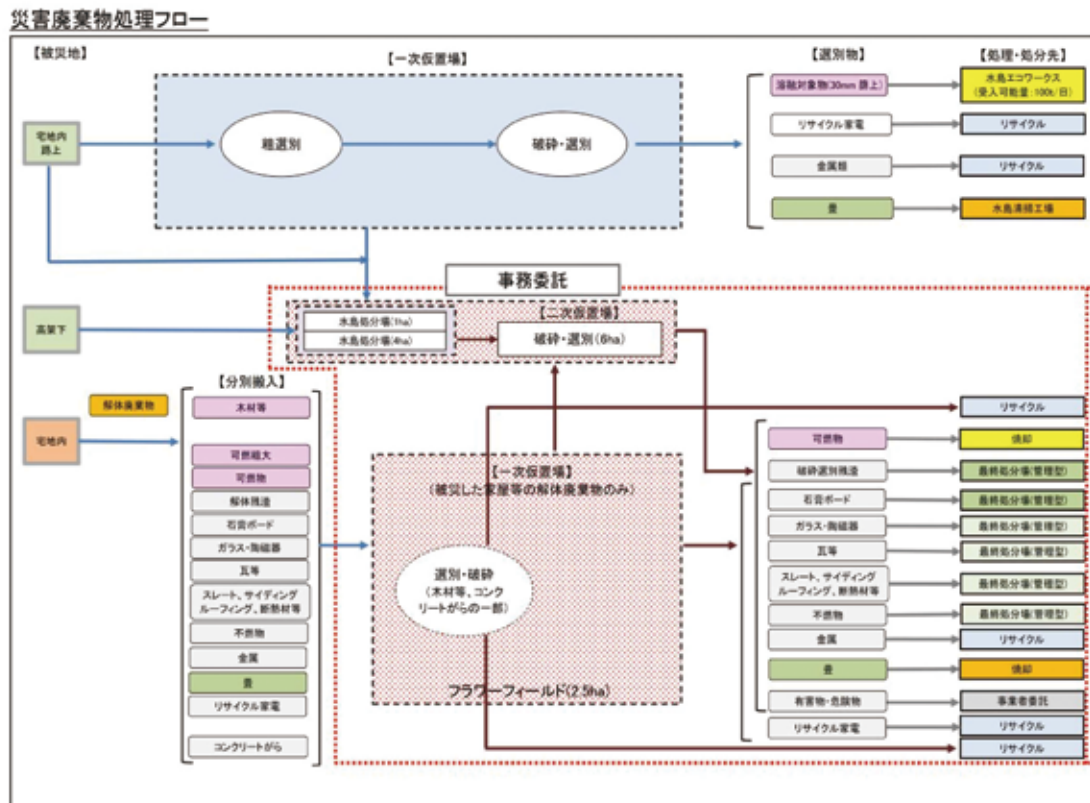


図-6 災害廃棄物等の処理フロー

災害廃棄物収集運搬(真備町集積場から仮置き場へ搬送) 車両の配車・進捗管理業務

(稼働期間) 2018年7月中：休みなし

8月以降：お盆稼働、日曜のみ休み

倉敷支部長 井上 正士

苦労した点

- 収集運搬車両は8：00集合・受付開始のところ、早朝からこられる車両が多数であったため、6：30から受付開始できるよう、毎朝早朝に受付で待機しておりました。
業務開始間もない頃は、受付・配車の際、本人含め、業務に携わる者が真備町内の地理に詳しい者ばかりではない状況下、仮置き場に指定されている真備町内の施設・学校の位置を案内するのがとても大変でした。
- また、二次仮置き場のあるJFE構内に入場経験がないドライバーさんがたくさんおられたので、搬送経路・JFEスチール構内交通規則等を周知させることは骨の折れる作業でありました。
混乱期は、真備町内の災害廃棄物積込み場所から町内搬送先まで、2～3kmほどの距離を片道2時間もかかってしまうほど大渋滞で、スムーズに業務遂行できず、本当に災害廃棄物すべてが片付くのだろうかと不安と焦りを感じておりましたが、絶対にやり遂げる覚悟で邁進いたしました。
- 倉敷市から収集運搬車両を増車するよう要請があっても、なかなか思うようには車両確保できず、頭を悩ませました。

倉敷市からの指示も、朝一番の指示が1、2時間後には変わるなど二転三転することもあり、対応に苦慮しました。

また、台風接近の際には、人的二次災害を起ささないよう作業員を派遣しないところですが、倉敷市からの要請どおり収集運搬作業を敢行いたしました。

風が強くなってくる中、ダンプにシートを



する時、風にあおられ危険が伴う作業でした。

たまたま二次災害が起こらなかっただけで、とても危険な作業であったと思います。

自治体の要請を調整・対応することが、大変でした。

感想

初動段階では、交通渋滞、収集運搬車両への指示、自治体との連携の難しさ等スムーズに事が運ばないあらゆる事由が重なりましたが、日が経過するごとに指揮系統が確立されていき、なんとか業務遂行することができました。

収集運搬車両ドライバーの皆様、重機運転者の皆様、他作業に従事していただいた全ての皆様、記録的な猛暑日が続く中、ご協力いただき本当にありがとうございました。

HIABでの作業従事の方々には、酷暑の中、車両エンジン熱の熱さに耐え、排気ガスも吸い込みながらの過酷な作業をしていただき、深く感謝しております。



末筆ではございますが、大きな事故等もなく無事に業務遂行できましたこと、これもひとえに、倉敷市の担当者の皆様、協会事務局の皆様のご尽力、青年部会長 株式会社田中商会 田中 剛様、青年部会理事 株式会社美建ビルサービス 塩田 誠様のお力添えの賜物でございます、心より感謝申し上げます。



真備地区災害解体廃棄物受入管理業務を通して

井笠支部長 三好 員弘

上空の天の川から溢れ出た水が地上に降り注ぎ引き起こした、7月7日豪雨災害に伴い多くの家屋が水の中に沈みました。産業廃棄物協会会員の中においても多数被災され、壊滅的な被害を受けられた企業もありました。そんな未曾有の状態の中、まずは地元の人命に関わる事象に対応し、その後の被災地支援に会員各位奮闘してきました。堤防等の仮復旧の目途がたって、被災地のゴミ撤去、解体家屋のゴミの扱いにおいて協会として協議していく中、8月16日に真



着工前

備地区の解体ゴミの仮置き場運営を産業廃棄物協会に依頼され、8月20日から受け入れ開始できないかとの相談を受けました。そして、常任理事会に於いて担当理事に自ら立候補させていただきました。その動機は被災現場での出来事でした。真備地区堤防の決壊現場に訪れた7月9日の朝7時ごろ、轟々と水が真備町内へとまだ流れ込んでいて、この復旧どうしたものかと現場で考えている中、多数の警察車両がやってきてある民家にブルーシートを張り始めました。テレビの中でしか見たことのないご遺体の搬送作業。この水害で多くの人命が失われ、慣れ親しんだ我が家も失われ、失望の中、途方にくれる人が何千人もいる。当社も被災し多くの物は失ったが、この人達の失った物に比べたらちっぽけなものだ、何かしなければという使命感がこみ上げてきました。そして、自分が出来ることは率先してやると決めた瞬間でした。故に、被災地の復興に寄与する本事業に自ら率先してやらなければと思いつきの立候補でした。

1日で計画案が策定し、2日で現地整備、計量器設置、現場事務所設置と、急ピッチな施工に会員各位の協力のもと8月20日より受け入れ開始できたことに感謝申し上げます。その後、徐々に受け入れ台数が増加し、一日受け入れ台数が350台を超える日もあり、1台当たり1分以内に計量伝票を発行しなければならない激務、掻き上げ作業等に加え、廃棄物の搬出作業も始まり絶え間なく続く廃棄物との戦いを、協会委託期間である11月28日までやり通すことができたのも、参加された会員各社の従業員の皆様のおかげと感謝しております。本事業を通して、一企業では対応し難い状況でも、協会という多くの会員を有する団体が結束して事業展開していくことにより、不可能を可能に出来るもの



委託期間完了時

であると痛感しました。当社地元の矢掛町に於いて、今回の協会の力を目の当たりにし、防災協定を結びたい意向を示しております。今後発生する様々な災害に対応するために多くの自治体と災害協定を締結し、迅速な復興作業に当たることが出来るなら、教訓として生かされたと言えるはずで。結びに、倉敷市、岡山県の担当職員の皆様、毎日深夜までの対応お疲れ様でした。また、当協会専務理事の奮闘に感謝しております。そして、なにより参画して下さった多くの協会員の皆様本当にありがとうございました。

総社市西公園仮置場の搬出作業 ～倉敷市真備町井原線高架下の撤去作業

岡山西支部 片岡 重治

平成30年7月6日 西日本豪雨災害。
テレビ報道で見た光景に言葉を失いました。

しかしどこか遠い地の出来事のようにも思え実感がわかないでいたのですが、実際に現地に車を走らせ高梁川を越えた時 空気が一変していたのを思い出します。

各市町からの災害対応要請を受け、すでに倉敷地内には倉敷・倉敷南・井笠支部が主導で着任されており、協会より私が着任した先は 総社市の災害廃棄物搬出業務で、備北支部が主体となり搬出作業に参加させていただきました。



準備段階からやるべき事は多く、車両の手配と確保。搬出ルートを決めJFE場内の通行許可書を確認し、同時に重機の選定を行いオペレーターも集い、回送手順・現地での燃料の確保にあたり、管理運営のスタッフを集い、作業管理簿、伝票の制作・発行・管理・運営、それに写真撮影・集計など・・・。

限られた人材の中でやりくりしていかなければなりませんでした。

作業着手後は連日の猛暑で、人も機械もオーバーヒート気味の中、熱中症などの二次災害にも気を付けながらの作業。

参加してくれた協会メンバーさん、総社市役所の担当者の方々、消防員、それに協会事務局スタッフの皆様、本当にご苦労様でした。

予定していた期間より早く無事に撤去完了する事ができました。

が、問題はここからでした。

真備地区に先行して作業にあっていた協会員と合流。
井笠鉄道沿いの廃棄物の積込・撤去作業が次の要望でした。



総社地区で作業にあたった凄腕オペレーター達とまずは現地視察。そこで終わりが想像できない膨大なゴミの山々を目にして正直、全員心が折れた!?!のを今でも思い出します。

これまでの重機や車両の数ではとうてい不可能だと。

自衛隊が参入し、あと県外業者も・・・。

地元が奮起せねば、躊躇している場合ではないと痛感。

そんな時に相談し合えたのが新旧の青年部メンバー達でした。

…無理が言い合えるメンバーです(笑)

窮地の際、心の拠り所を持たせたことが本当に次への活力とつながりました。

井笠鉄道沿い3km程に積込箇所を定め、そのポイントごとに車両チームを振り分けしてもらい撤去を開始。

着工当初は積み終えた場所に翌朝出向くと また震災ゴミが持ち込まれ散乱しているといった状況。気温も猛暑日が続き浸水した真備の町は乾いた泥が空に舞いといった作業環境の中、長く長い工程が予想されました。

しかし日に日に応援してくれる業者さんも増えて、予想を超える日程で作業を完了する事ができました。

今回、このような災害を経験して 個の力がいかに無力かを痛感しました。

しかしこの体験で 協力できるメンバーと知り合え助け合えたことが一つの成長であったと思います。

作業に携わっていた
だいたの皆様、ご苦労
様でした。

追記、
現在もまだ関係書類等
を整理調整している協
会事務局、本当にご苦
労様です。ありがとう
ございます。



井笠支部における災害廃棄物処理支援について ～井原市、笠岡市の被災物切断処理～

井笠支部 坂川 晃一

岡山県産業廃棄物協会井笠支部では昨年7月に起きた西日本豪雨による井原市及び笠岡市の災害廃棄物の処理支援を行いました。

笠岡市においては被災によって水没した畳の切断処理を平成30年8月24日～9月19日(延べ21日間)に行いました。

畳約2600枚(110t)を里庄清掃工場で焼却する為に30cm以内に切断しなくてはなりません。カッター付きのバックホウ2台で作業を行いますが畳の量が多く、とても根気のいる作業です。時には刃に畳が詰まったり発砲スチロールが内部にあり破砕した物が飛散しないよう防護柵を設けたりして作業を行いました。最初のうちはなかなか上手く切断できず手間取っていましたが後半になるとコツをつかんだのか作業スピードも上がり予定より1週間早く作業が終了しました。



井原市においてはこれも水没した反物の切断処理を平成30年9月12日～9月26日(延べ10日間)に行いました。

井原市芳井町の体育館より反物260㎡をダンプトラックにて井原クリーンセンターまで運搬し1本1～1.5mの反物を3つに切断する作業です。

運び込んだ反物の中にはビニールに包まれていない物も多く切断したままだと焼却炉に投入時にバラけて詰まる恐れがあるという事なので切断後の物を一つ一つ確認してバラになりそうな物はヒモで縛る作業が必要となりました。また切断する時に反物の種類によっては刃に詰まる事もあったので鉄の板をバックホウのバケツに溶接した物を作成し作業効率を上げて処理を行いました。



最後にこの度の西日本豪雨で被災された方々の一刻も早い復興を心からお祈り申し上げます。

平成30年度西日本豪雨総社市ゴミ運搬リポート

備北支部 (株)平松運輸

昨年度7月の、西日本豪雨で大きな被害があった総社の災害ごみを総社市下倉の最終処分場から事業団に運搬することになり、平成30年10月2日から10月29日まで計23日携わりました。事業団に運び入れた量は、2,441トンになりました。

産業廃棄物協会員、延べ222社様のお力添えを頂きまして無事完了させていただくことができました。

総社市下倉最終処分場からの搬入・搬出路が大変狭く、各社乗務員の皆様には大変ご迷惑をお掛け

しましたが、皆様嫌な顔一つもせず、対応して頂き大変順調に進むことができました。また、現場においては重機オペレーターの方々並びに、警備スタッフの方々もご尽力ありがとうございました。

普段、岡山県産業廃棄物協会員全体で同じ事業を運営させていただく機会はありませんでしたが、この有事に協会員一同となって一つの事業を完遂させることができ、非常に楽しい現場でした。また、機会がありましたらまた一緒に仕事が出来たらと思いました。

約1ヵ月、皆様とご一緒させていただきありがとうございました。

また、どこかでご一緒させて頂くことがありましたら、よろしくお願い致します。



社員の声



○今回の現場でご一緒させて頂きました皆様、本当にありがとうございました。この現場には、弊社の若手社員を2人同行させていただきました。一か月程でしたが少しは逞しく成長したかなと思います。これも、単衣に皆様の暖かい対応のおかげです。ありがとうございました。

○入社して、半年余りで大きな現場に携わることになり不安がいっぱいでした。

皆様のおかげで、無事に終わることができました。ご迷惑をかけることが多々ありましたが、日々勉強することばかりでした。本当にありがとうございました。

○苦悩しつつも、無事業務を完了できたのは、関係者の方々の厚いご指導のおかげだと思っています。このひと月の経験は、私にとって今後の業務に生かせる大変有意義なものとなったと実感しています。ありがとうございました。

産廃の違法運搬を食い止める! 抜き打ち検査を実施しています

1 取組の概要

県では、産業廃棄物の適正処理を確保する方策の一つとして、排出事業者の県外からの産業廃棄物の搬入に係る事前協議制度を設けています。

この制度により、産業廃棄物の適正処理や県外からの搬入抑制に一定の効果が上がっていると思われませんが、事前協議を経ることなく県外から産業廃棄物が搬入されるケースも散見されます。

こうした背景から、平成15年度から年に数回、警察の協力を得て主要幹線道路において産業廃棄物を運搬している車両の抜き打ち検査を実施し、廃棄物の種類・性状、排出事業者、運搬先等を確認するとともに、マニフェストとの突合、必要書類の点検等を行っています。

2 路上検査の結果

平成30年は路上検査を2回実施しました。

第1回は県単独で、第2回は岡山市及び倉敷市と時期を統一して実施しました。

(1) 第1回 (H30.5.31及び6.4に県内2か所で実施)

		岡山県
停車指示車両数		17台
	うち産廃関係車両数	16台
	うち指導台数	1台

(2) 第2回 (H30.10.4～10.17の間に岡山市と時期を合わせて県内4か所で実施)

		岡山県	岡山市	合計
停車指示車両数		34台	13台	47台
	うち産廃関係車両数	8台	9台	17台
	うち指導台数	3台	1台	4台

3 今後の取組等について

- ・ 特に多い違反事項は、現在有効な許可証の写しの不携行、マニフェストの不携行や記載不備、車両への表示義務違反です。すぐに改善できますので、この機会に確認をお願いします。
- ・ また、産業廃棄物を産業廃棄物でないと思いきみ運搬するケースも散見されます。
契約締結時などの機会をとらえて排出事業者からよく内容を聞いたり、産業廃棄物の担当窓口で確認すれば未然に防げる場合がありますので、こうした確認を徹底していただき法令違反となるような事態を回避してください。
- ・ 産業廃棄物の不適正処理は、生活環境に大きな影響を与えかねない問題です。
本県では、今後とも効果的な路上検査を継続して実施していきます。

PCB使用安定器の早期処理に御協力ください!

1 PCB使用安定器とは

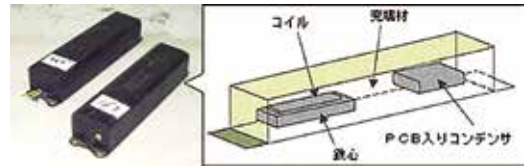
「PCB使用安定器」とは、昭和32年(1957年)1月から昭和47年(1972年)8月までに国内で製造された照明器具の安定器のうち、PCBが使用されたものを指します。

PCBの使用の有無については、安定器に貼付された銘板の情報から判別できますので、詳細は各メーカーに問い合わせさせていただくか、(一社)日本照明工業会のホームページを参照してください。

一方、既にPCB廃棄物として保管されている安定器の中には、PCBが含まれていないものが混在している場合がありますので、詳しくは中間貯蔵・環境安全事業(株)(JESCO)のホームページを参照いただき、仕分けに御協力ください。

なお、一般家庭用の蛍光灯等の安定器にはPCBが使用されたものはありません。

安定器



(一社)日本照明工業会：<https://www.jlma.or.jp/kankyo/pcb/index.htm>
J E S C O：<http://www.jesconet.co.jp/customer/bunbetsusokushin.html>

安定器の種類によりPCBコンデンサが使われています。安定器の種類等は「銘板」で確認できます。



2 安定器の使用・保管状況の調査のお願い

PCB使用安定器は、製造から40年以上が経過しているため、**劣化して破裂し、PCBが漏えいする事故が発生**していますが、こうした事故は、過去の調査で使用が確認されていないとされた建物でも発生しています。

このため、**昭和52年(1977年)3月までに建築・改修された全ての建物を対象に、古い安定器の使用の有無について速やかに調査(全数調査)していただき**、PCB使用安定器が見つかった場合は取り外して交換してください。

3 PCB使用安定器の使用・保管が確認された場合の対応方法

(1) 保管状況等の届出

PCB使用安定器を使用・保管している事業者は、PCB特別措置法に基づき、県知事に保管状況等の届出が必要です(処理されるまでの間、適正に保管しなければなりません。)ので、使用・保管が確認された場合は、**まずは県庁循環型社会推進課に御相談ください。**(循環型社会推進課 TEL:086-226-7308)

(2) 処理期限までの適正処理

PCB使用安定器の処理期限は**平成33年3月31日**です。現在使用中のものも期限までに必ず処理しなければならず、期限を過ぎると改善命令や罰則の対象となります。

処分については、**中間貯蔵・環境安全事業(株)(JESCO)北九州PCB処理事業所に委託**することとなります。早期処理に御協力下さい。(JESCO北九州PCB処理事業所 TEL:093-522-8588)



岡山東支部 視察研修レポート

視察研修レポート①

平成30年3月22日、岡山東支部では魅力ある会社づくりを学ぶという観点で、サポーター・コレット等の医療用品メーカーのダイヤ工業様を視察させていただきました。

同社は、数々の賞を受賞され、素晴らしい商品を提供され続けています。また、毎年新卒採用をされており若い社員さんも多く、とても活気のある社風が感じられました。

このような社風を作り上げたのは、先代より引き継いだ松尾社長が家業から企業へ改革したことからはじまり、企業理念を掲げ、経営方針を立て、方針に従って企業として正しい道を進んできた結果であるそうです。社内にはいたるところで会社理念をみることができます。全社をあげて理念を大切にしている様子が伺えました。

社屋内のサポーターを販売するショップからは縫製作業を見学することができます。整理整頓された「魅せる」縫製工場であり、商品の安心感が高まります。ニーズを探り、提案し、知ってもらって、改良する。この流れで商品を育てているそうです。オーダーにも対応しているとのことで、ユーザーに対する細やかな気づかいが感じられます。

また、社屋はレストランやスポーツジムとの複合施設となっており、社員の満足度向上はもちろんのこと、地域の活性化にもつながっているようです。

魅力のある会社とは、理念を掲げ、着実に実践している会社ではないかと思います。社会で必要とされる会社であり続けるためにも、学んだことを活かして魅力ある会社づくりに取り組んでいきます。

視察研修レポート②

平成30年10月13日、岡山東支部では広島県尾道市にて視察研修を行いました。尾道市の中心部は海と山に囲まれた港町です。以前は高齢化、過疎化が進みシャッター街だったようですが、地域の活性化に取り組み、今では観光名所として多くの観光客、サイクリストが訪れる活気溢れる街になっています。

私たちは、尾道造船株式会社と ONOMICHI U 2 を視察させていただきました。尾道造船ではタンカーの進水式が行われており、多くの地域の方や観光客が見学されていました。

一般の方に見学していただくことは中々難しいことですが、見習うべきところでした。地域に開放して貢献されており、尾道になくてもならない企業といった印象でした。

「ONOMICHI U 2」は海に面した複合施設になっており、尾道の新名所と言われています。この施設は古い海運倉庫がリノベーションにより、ホテル、レストラン、サイクルショップとなり、多くの人でにぎわっていました。

この施設の魅力は古くからあるものを活用することで街並みを守り、新しい事業に取り組んでいるところにあります。元々は古い建物なので、解体して土地として活用する。または新しい建物を建築する、というのが従来の考え方です。しかし、街の人々自らが、今あるものを活用し、従来とは違った観点で新しい事業を考え、取り組んだことが街の活性化につながったのだと思います。

この事例は会社組織にも通じます。従来通りに留まっていると、考えることをやめ、組織に元気がなくなってしまう。会社で働く仲間、自らが、様々な観点で考え、意見を述べる環境を作ることが、組織の活性化につながるのではないのでしょうか。今後の会社経営のヒントになる気づきを得た良い視察研修となりました。





第12回岡山東支部地域 環境クリーン化事業レポート

平成30年1月23日、瀬戸内市邑久町庄田地内の県道沿いにて、第12回となる岡山東支部地域環境クリーン化事業を開催しました。気温も低く、前日の雨で足もとの悪い中ご協力いただきました皆様ありがとうございました。

岡山東支部では例年、協会青年部とタイアップし不法投棄の回収と同日に、地元の小学生への環境学習を行っています。地域環境の守り、子供たちに正しい知識と価値観を育むためにこの活動を行っています。

今回の回収現場は県道沿いとはいえ、通行量がほとんどないため不法投棄しやすい環境であったと言えます。斜面から冷蔵庫、洗濯機、テレビなど約1.5トン回収しました。回収したものは古いものばかりで近年捨てられたものはほとんどなく、不法投棄が減少していることを実感できました。見学に来ていた裳掛小学校の3,4年生も不法投棄の多さには驚いた様子でした。

見学を終えたあとは教室で座学です。不法投棄をしてはいけないこと、ゴミを減らすためのリサイクル、私たちの生活には産業廃棄物が密接に関係していること。現実を知り、対策を学ぶことで、学校の勉強だけではない大切なことを伝えられたと思います。

美しい環境を将来へ引き継ぐためにも、私たちはこの活動を継続してまいります。



岡山西
支部

岡山中央
支部

岡山西支部・岡山中央支部 合同環境クリーン作戦

実施日時 平成30年11月7日(水) 8:00~11:00

実施場所 岡山市南区宮浦地内金甲山、貝殻山周辺

参加人数 108名(地元議員、行政職員、地元町内会、会員)

今年も岡山西支部と岡山中央支部は合同にて岡山市南区金甲山及び貝殻山周辺の清掃活動を行いました。今年は何年にも比べても暖かな日となり、晴天にも恵まれました。当日の参加者は、関係行政職員を始め、太田県議、磯谷市議、地元町内会などから多数のご参加を頂き、108名にて清掃活動を行いました。

まず大塚会長より開会挨拶を頂いた後、泉岡山西支部長より作業手順の確認があり、両支部で金甲山方面と貝殻山方面、八丈岩山方面に分かれて作業を開始しました。

作業箇所は例年と同じく、その多くが急斜面であったり、その急斜面を降りて行った場所にあるため、収集作業も足場の確認をしながら慎重に行いました。また大きな粗大ごみの収集に関してはヒアブ車の活用でスムーズな作業を行うことが出来ました。

今年は昨年よりも収集した廃棄物の量が減り、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、金属くずを合わせて約10トン、タイヤは16本を収集することが出来ました。(昨年の収集量が約15トンでしたので、約3分の2となっています)



数字の上では不法投棄が減少しているという結果になっていますが、収集した廃棄物の中には真新しいものもあり、毎年「不法投棄禁止」の看板を設置しているにも関わらず、いまだ不法投棄がなくならないのが現状です。

ご参加下さった多くの皆様、本当にありがとうございました。これからもご協力を宜しくお願い致します。



倉敷南支部 環境クリーン作戦



実施日 平成30年11月18日（日）

実施場所 倉敷市福江 福林湖周辺

総参加人数 95名

今年も昨年に引き続き福林湖周辺のクリーン作戦を実施致しました。

昨年は小雨が降る中で開催となりましたが、今年は天候良くクリーン作戦日和となり会員会社72名と福林湖周辺の住民の皆様23名の参加をして頂きました。



今年は池の水位は下がっており、昨年より広い範囲で作業ができタイヤ、自転車等大きいものから、ペットボトル、弁当ガラ等の多種にわたる不法投棄ゴミを回収できました。

回収後、不法投棄禁止の立て看板を8本設置し終了しました。

参加くださいました支部会員並びに、関係者の皆様御協力有難うございました。



井笠
支部

井笠支部環境クリーン作戦

「今年はみんなで
災害ごみの後始末をしよう！」

本年度のクリーン作戦は7月7日豪雨災害に伴う災害廃棄物仮置場の残渣物撤去作業を行いました。重機では取り切れていないゴミ撤去を手作業で行い、見た目は地味ですが腰を屈めての作業はかなりきつい作業でした。矢掛と笠岡の仮置場での撤去を行いました。土砂ごと入れ替えなければならないと行政担当者は危惧されていましたが、ほぼすべての細かいゴミまで撤去したので、その必要が無くなったと大変感謝されました。各地復旧作業で人員が逼迫する中での各会員の皆様の参加に感謝します。

実施日時 平成30年10月23日 9:00~12:00

実施場所 矢掛町災害廃棄物仮置場、笠岡市災害廃棄物仮置場

参加者数 備中県民局2名、矢掛町2名、笠岡市2名、会員25名(合計31名)

使用車両 3台

回収ごみ 災害廃棄物約6.0t(廃プラスチック、木くず、ガラスくずなど)



笠岡市干拓地内の
災害廃棄物仮置場





備北支部 新見地域クリーン作戦

クリーン作戦は11月9日(金)に行われました。当日は晴天でしたが少し肌寒い日でした。今回も昨年同様同じ場所での、新見市環境衛生協議会主催による新見市草間地内の高梁川流域のクリーン作戦でした。新見市・新見市環境衛生協議会、産業廃棄物協会備北支部新見会員が参加しての作業で協会員併せて約30名での作業となりました。今回も協会員は備北支部クリーン作戦用の青ジャンパーを着用での参加でした。産廃協会の参加者は9社13名と大勢の協会員に参加いただきました。このジャンパーのおかげで誰がどこにいるのか一目瞭然と艶やから青色ジャンパーが協会員の参加をさり気なくアピールすることも出来ました。



クリーン作戦実施エリアにはいつもは井倉洞の駐車場に集合してクリーン作戦現場に行くのですが、7月の豪雨災害のため、井倉洞の駐車場が使えないためクリーン作戦実施場所を変更し新見市足見地内の高梁川沿いで行われました。



作業現場は川原の石が丸くまた草が覆いかぶさっていて足場が不安定でしたが、大きな事故もなく無事、午前中に終了しました。今回のメインの作業は川沿いの木に引っかかっているコンビニ袋などのプラスチックの撤去でした。7月の豪雨災害で川沿いの木に白い花びらのようにコンビニ袋が多数ついていました。豪雨水害のすごさを象徴しているのを感じました。プラスチックだけでも用意した2トントラック

に一杯となりました。昨年に引き続き今年も今回参加人数が多くまた参加者の皆さんの手際のよい作業のためあっという間に川沿いはきれいになりました。

この新見市環境衛生協議会主催の新見市草間地内の高梁川流域のクリーン作戦は毎年行われますので協会も引き続き参加させてもらうようにしていきたいと思えます。

地域の人の協力のもと事故もなく無事クリーン作戦が終了することができましたことに改めて感謝申し上げます。

津山
支部

第29回津山支部総会・ 視察研修会開催

開催日時：平成30年5月21日(月) 総会 9：30～ 視察研修 10：30～17：00

視察内容：真庭バイオマスツアー

参加者：支部会員20名 美作県民局1名 計21名

今年度津山支部は支部総会と同時に視察研修を開催しました。視察先までの車中にて総会を行い、その後真庭観光局が主催しているバイオマスツアーへ参加するというものでした。

総会は、揺れる車中ではありましたが滞りなく進行することができました。

寺門支部長挨拶の後、美作県民局地域政策部環境課長の檜尾昌宏様よりご祝辞を賜り、その後平成29年度活動報告・決算報告、平成30年度活動計画・予算案および役員の改選について議案が上程され、いずれも満場一致で承認されました。

バイオマスツアーは真庭市役所本庁舎からスタートしました。まず木材ふれあい会館にて市役所の方から真庭市におけるバイオマス産業都市構想の概要を伺いました。地域資源を活用し、エネルギーの地産地消を進め、産業の活性化を目指しながら長期的な取組を行う姿勢に感服致しました。その後勝山町並み保存地区に移動し、昼食を頂きました。食事を楽しみながらの自己紹介や情報交換等により、会員同士の親睦を深めた後、バイオマス原料の安定供給を目的とした集積施設である月田総合集積場や真庭バイオマス集積基地第二工場を見学しました。どの山から誰が木を切り誰が運んだかがネット上で分かるよう管理され、トレーサビリティがしっかりと行われていました。

その後真庭バイオマス発電所を見学しました。こちらは従来有効利用されていなかった未利用木材や製材端材、樹皮などを主燃料として発電し、工場だけでなく電力会社を通じて真庭市役所や公共施設等、そして今年から真庭市の小学校にも電気供給を開始したということでした。電力の資源循環も始まっているとの工場側の熱心な説明に、参加者一同その取組に深く感心致しました。

最後は真庭市役所本庁舎にて冷暖房チップボイラによる熱利用などの説明を受けてツアーは終了しました。

総会とツアー合わせて約8時間という長丁場の企画ではありましたが、ツアーガイドの方が非常に丁寧で明るい方であり、終始楽しく見学を行うことができました。

また、大変知見を広げる事ができ、非常に有意義な研修旅行となりました。

ツアーの最後には役員でもある坂田碎石工業(株)の近堂様からご挨拶を頂き、今回の総会兼視察旅行を無事締めくくることができました。

今回現事務局としては初めての取組で色々とお悩みましたが、終わってみれば非常に良い企画だったなど感じており、また、参加された皆様からも同様のコメントを賜り、うれしく思います。今後も第24回津山地域環境クリーン作戦含め色々検討していきたいと考えておりますので、支部会員の皆様には今後とも積極的なご参加とご協力の程よろしくお願いたします。





第24回津山支部 環境グリーン作戦

実施日時 平成30年11月13日（火） 8：30～12：00
実施場所 津山市田熊地区内
参加人数 63名（会員31名、美作県民局5名、津山市11名、地域住民16名）
回収量 計7.81t（廃家電、粗大ゴミ、古タイヤ等、不燃物、可燃物）

今年の津山支部環境グリーン作戦は津山市田熊地区内で行いました。

今回の場所は近年よくあった山中の広範囲にゴミが捨ててある、というケースとは違い、市街地のほぼ1ヶ所に集中してゴミが捨てられている所でした。市道沿いから見える場所であり、目に付きやすい為かゴミが年々増え続けており、かなりの量のゴミが捨てられていました。

今回はもう一つ特徴として廃家電や粗大ゴミが非常に多く、回収した重量のうち約8割を占めており、冷蔵庫やTVなどこんなにあるものなのか、と非常に困惑しました。



作戦前日は小雨が降り翌日の天気は少しだけ心配になりましたが、当日は雨が降ることなく無事始めることができました。小学校も近く、朝開会式前の準備中登校してくる小学生達と挨拶をかわす度に早くキレイにせねば、という思いが強くなっていきました。実際作業が始まると今回は大型の物が多かった為ユニック車やヒアブ車が活躍し、下見での対策がうまくいったなど一安心しました。

最終的に地域住民の皆様を始めとする参加者全員、誰一人ケガすることなく作業は終了しました。この日に回収したゴミは、津山市や会員各社から協力頂いた車両に載せ、二度とこの地に不法投棄を起こさせないよう願いを込めて看板を打ち立て、12時頃に作業は終了しました。



残念ながら全てのゴミを回収するというわけにはいきませんでした。活動前よりも確実にゴミを回収しキレイにすることができました。来年のクリーン作戦場所は未定ですが、個人的には同じ所を行い「もっとキレイにしたい」と思いました。

最後になりますが、全てのゴミが決められた方法で適切に処分される日が来ることを強く望みます。

ご参加下さった皆様、本当にありがとうございました。

第14回 親子エコツアー



青年部会では、夏の恒例イベント「親子エコツアー」を8月18日(土)に実施しました。14回を迎える今年も、「家電リサイクル工場見学と環境学習・物づくり体験」のいつもご好評頂いている2本立てを計画し、山陽新聞に広告を掲載したところ、たくさんの応募を頂きました。その中から74名にご参加頂き、岡山駅から2台のバスで出発しました。

パナソニックエコテクノロジーセンターは兵庫県加東市にあるメーカー直営の家電リサイクル施設で、不要となった冷蔵庫、テレビなどの家電製品を解体、

分別する様子を実際に観て学ぶことができ、リサイクルされるまでの流れを分かりやすく説明して頂き、子ども達は積極的に質問、発表をしていました。

環境学習・物づくり体験はパナソニックエコテクノロジーセンター近くのやしろ国際学習塾に会場を移し、青年部会員の石原、的場による環境学習「ごみとリサイクルのお話し」物づくり体験では廃材コーディネーターの梶並様による「けん玉づくり」を親子で楽しみました。

一日を通して、子ども達からは「初めての体験ですごく勉強になった。」「リサイクルに興味を持った。」「リサイクルは大事だと思った。」など参加して良かったという感想ばかりで、保護者の方からも「親子共に良い経験になりました。ありがとうございます。」というお言葉を頂き、私達の励みにもなりました。

今後も、産業廃棄物業界全体のイメージアップと社会貢献のために、青年部会も全力で取り組んでまいりますので、ご協力の程、宜しくお願い致します。



平成30年度 青年部視察研修

平成30年11月21日(水) 青年部視察研修として金属リサイクルのリーダー的企業である地元岡山の(株)ヒラキン リサイクルステージ玉島を見学に行きました。

10,000坪を有する広大な敷地の中は綺麗に整理整頓が行われ、金属リサイクルを行うためのシュレッダープラントを中心としたあらゆる設備が配置されており、効率よく次々とリサイクル製品が出来上がっていく模様に関心致しました。

まずは各地から集められるスクラップの放射能検知から始まり、危険物、爆発物の検査・抜取りを行い作業の安全及び再生品の安全確保を徹底していることを確認しました。その後強固な金属は小さく破碎され選別工程へ進み、自動選別にて各素材毎に細かく選別されていきます。なかでも感心したのは最終工程に数名の人員を配置し「人の目」による素材選別の徹底を行い再生品の品質向上を図っていた事です。そして出来上がりの金属製品置場には再生を心待ちにした綺麗に選別された製品のみが積みあがっていました。

説明の中では昨今の中国の環境問題における禁輸措置に触れ、スクラップ業界の現状や今後の処理動向など色々な業界の話聞くことができ、参加した会員の方々からも積極的な質疑が行われました。



青年部会員募集中

～ネットワークの構築・自己啓発・次世代の育成～

青年部会は、会員の相互交流を図りながら、今後の廃棄物処理事業を見据えた各種研修事業や環境学習等の広報啓発活動などに取り組んでいます。

現在の会員は約43名で年々減少傾向にあります。

対象は、協会会員及びその社員で、50歳以下の男女となっていますので、是非この機会に青年部会への入会をご検討ください。

お問合せは、協会事務局までお願いします。

平成30年度 環境おかやま大賞(岡山県知事表彰)の受賞

平成30年12月15日、岡山ままかりフォーラムで環境おかやま大賞の表彰式が執り行なわれ、当協会からは次の2名が表彰されました。

表彰部門 循環型社会推進者功労

受賞者 岩元 博（理事、山陽環境開発株式会社 取締役会長、備北支部）

受賞者 水島エコワークス株式会社（倉敷支部）



新規入会者の紹介

(H30.2.1～H31.1.31入会)

岡山東支部

(株)一輝

代表取締役 京極 隆俊
〒701-4264 瀬戸内市長船町土師1435番1
電話 0869-26-9775 FAX.0869-26-9776
収集運搬 H30.3.29 入会

(有)ジーテック

代表取締役 伊永 雅一
〒702-8006 岡山市中区藤崎146-6
電話 086-948-9226 FAX.086-948-9235
収集運搬・中間処理 H30.11.30 入会

岡山西支部

(株)フミタ組

代表取締役 文田 相律
〒702-8011 岡山市南区郡 1272-4
電話 086-267-2507 FAX.086-267-3111
収集運搬 H30.4.24 入会

トラスト・クリーン(株)

代表取締役 室山 宣英
〒700-0941 岡山市北区青江 4-22-20
電話 086-259-5588 FAX.086-259-5577
収集運搬 H30.7.24 入会

(株)中国住宅工業

代表取締役 奥村 奈巳
〒701-0131 岡山市北区花尻みどり町 5-107
電話 086-255-9000 FAX.086-255-9003
収集運搬 H30.7.24 入会

エコシステム岡山(株)

代表取締役社長 氏原 尚
〒702-8506 岡山市南区海岸通 1-3-1
電話 086-262-9020 FAX.086-264-0271
中間処理 H30.8.17 入会

(株)アルス工業

代表取締役 内海 光徳
〒700-0912 岡山市北区大供表町 7-1
電話 086-222-2225 FAX.086-222-2228
収集運搬 H30.11.30 入会

(株)光岡組

代表取締役 光岡 政勝
〒700-0942 岡山市南区豊成 1-1-13
電話 086-224-5305 FAX.086-223-2510
収集運搬 H30.11.30 入会

(株)ecoプロジェクト

代表取締役 松多 広樹
〒701-0221 岡山市南区藤田 890-6
電話 086-296-0706 FAX.086-296-0708
収集運搬 H30.11.30 入会

倉敷支部

ニチエイケンセツ(株)

代表取締役 眞砂 宏樹
〒710-0833 倉敷市西中新田 525-34
電話 086-434-3459 FAX.086-441-0433
収集運搬 H30.4.24 入会

朝倉龍水園

代表 朝倉 立一
〒710-0065 倉敷市宮前 89-5
電話 086-426-8899 FAX.086-426-8016
収集運搬 H30.7.24 入会

(株)ユキケン

代表取締役 岡本 幸雄
〒713-8103 倉敷市玉島乙島 5586
電話 086-526-8385 FAX.086-526-8285
収集運搬 H30.8.17 入会

アーバンロード開発工業(有)

代表取締役 西川富代子
〒710-1102 倉敷市茶屋町早沖 1570-1
電話 086-436-8866 FAX.086-436-8877
収集運搬 H30.9.14 入会

倉敷南支部

(株)山内工業

代表取締役 山内 勇
〒712-8051 倉敷市中畝 3-12-37
電話 086-456-9733 FAX.086-456-9735
収集運搬 H30.7.24 入会

(株)瀬戸内興建

代表取締役 篠野 敬貴
〒713-8103 倉敷市玉島乙島 49-29
電話 0863-33-3535 FAX.0863-33-3536
収集運搬 H30.8.17 入会

(有)児島陸送

代表取締役 宮本 憲一
〒711-0911 倉敷市児島小川 9-6-16
電話 086-472-3752 FAX.086-451-8118
収集運搬 H30.8.17 入会

NEXT WORKS (株)

代表取締役 新谷 清志
〒710-0145 倉敷市福江 1183
電話 086-486-5156 FAX.086-486-5157
収集運搬 H30.8.30 入会

備北支部

ニューロード(株)

代表取締役 藤森 伸広
〒719-2122 高梁市高倉町田井 1880
電話 0866-26-1181 FAX.866-26-1210
収集運搬・中間処理 H30.7.24 入会

津山支部

(株)五月工建

代表取締役 高山 尚明
〒708-0001 津山市小原 127
電話 0868-25-1839 FAX.0868-25-1933
収集運搬 H30.8.17 入会

よろしくお願い申し上げます。

平成30年7月西日本豪雨災害（倉敷市真備町）



写真提供：岡山県

平成30年7月の西日本豪雨により倉敷市真備町は約1,200haが冠水し、約4,000戸が全壊、約1,000戸が半壊する等大きな被害を及ぼしました。これに伴い災害廃棄物も一般家庭からの約6万tが発生し、集積所で収まりきらないごみが道路や空地にあふれ、ごみ渋滞を引き起こしました。

編集後記

7月の西日本豪雨災害により、当協会は協定に基づく災害廃棄物処理業務を最優先に取り組むこととしたため、通常の協会事業が当初の計画どおり実施することができず、視察研修の中止や研修事業の開催時期の変更など会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

環境クリーン作戦等の支部活動、環境学習等の青年部活動は、可能な範囲での実施となりましたが、会員皆様のご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

この会報誌「くりーん岡山」は9月発行分を見送ったため、今回まとめたの事業報告、情報提供となっていますが、何卒ご理解をお願い申し上げます。

事務局長 岩本

会報・くりーん岡山 第58号

平成31年1月31日 発行

発行 一般社団法人 岡山県産業廃棄物協会
〒701-1152 岡山市北区津高628-6
TEL 086-254-9383 FAX 086-254-8766

編集 総務広報委員会

印刷 萌友出版

株式会社高谷建設

代表取締役 **高谷 耕治**

〒七一一〇九三六

倉敷市児島柳田町二二二六―四

電話 ○八六一四七三―三六二四

FAX ○八六一四七二―六二七三

泉建設株式会社

代表取締役 **泉 正昭**

〒七〇二一八〇一三

岡山市南区鮑浦一二六

電話 ○八六一二六七―五三三三

FAX ○八六一二六七―五三三四

タマタイ産業株式会社

代表取締役 **大塚 雅司**

〒七〇〇〇九三五

岡山市北区神田町二一―二五

電話 ○八六一二二四―三二九一

FAX ○八六一二二三―六三五四

内海産業株式会社

代表取締役 **松本 俊成**

〒七〇四一八一九五

岡山市東区西大寺金岡一三三〇―五

電話 ○八六一九四八―二一三七

FAX ○八六一九四八―四七六七

迎春



エコシステム山陽株式会社

代表取締役 **寺門 洋**

〒七〇八一五二三

久米郡美咲町吉ヶ原一―二五

電話 ○八六八―六二―一三四六

FAX ○八六八―六二―一三四五

株式会社野崎運輸機工

代表取締役 **野崎 文夫**

〒七〇四一八一九四

岡山市東区金岡東町二―一四―三三

電話 ○八六一九四二―三三八一

FAX ○八六一九四三―七九二七

野崎産業株式会社

代表取締役 **野崎 剛正**

〒七〇四一八一九四

岡山市東区金岡東町二―一四―三三

電話 ○八六一九四二―三六五一

FAX ○八六一九四三―七九二七

株式会社石原工務店

代表取締役 **石原 孝**

〒七〇四一八一九三

岡山市東区金岡西町八〇―一―一

電話 ○八六一九四二―五一一

FAX ○八六一九四二―一五九五

アサヒプリテック株式会社

代表取締役 **中西 広幸**

〒七〇四―八一―九三

岡山市東区金岡西町一一五七―一

電話 ○八六―九四八―四一七〇

FAX ○八六―九四八―四一八二

株式会社日本資源開発社

代表取締役 **林 大悟**

〒七〇九―〇六〇七

岡山市東区浦間一一〇二

電話 ○八六―二九七―二二二八

FAX ○八六―二九七―二二二四

牛窓港湾運輸株式会社

代表取締役 **田中 三春**

〒七〇一―四三〇一

瀬戸内市牛窓町長浜四九五九―二

電話 ○八六九―三四―四九七八

FAX ○八六九―三四―四一五五

新岡山陸運株式会社

代表取締役 **木下 聖士**

〒七〇二―八〇〇五

岡山市中区江崎七四六―三

電話 ○八六―二七六―一一一一

FAX ○八六―二七六―二二六六

謹賀新年



明和建設株式会社

代表取締役 **黒田 正義**

〒七〇九―〇六三一

岡山市東区東平島一三九九

電話 ○八六―二九七―三七三七

FAX ○八六―二九七―四七二二

有限会社片岡久工務店

代表取締役 **片岡 重治**

〒七〇二―八〇三三

岡山市南区福富東二―一七―一三

電話 ○八六―二六三―二〇一〇

FAX ○八六―二六三―二四六八

有限会社井上設備

代表取締役 **井上 實**

〒七〇二―八〇二四

岡山市南区浦安南町五八四―三

電話 ○八六―二六三―八七四五

FAX ○八六―二六三―八四六四

株式会社岡清組

代表取締役 **藤井 武士**

〒七〇〇―〇八六六

岡山市北区岡南町二―五―七

電話 ○八六―二三三―七二三〇

FAX ○八六―二三六―〇一一三

栄光テクノ株式会社

代表取締役 堀川 英治

〒七〇〇—〇九四三

岡山市南区新福二一七—二〇

電話 ○八六—二六五—一二三四

FAX ○八六—二六五—七七二二

株式会社フミタ組

代表取締役 文田 相律

〒七〇二—八〇一

岡山市南区郡一二七—二一四

電話 ○八六—二六七—二五〇七

FAX ○八六—二六七—三一三一

株式会社アルス工業

代表取締役 内海 光徳

〒七〇〇—〇九一二

岡山市北区大供表町七—一

電話 ○八六—二二二—二二二五

FAX ○八六—二二二—二二二八

岡山砒油株式会社

代表取締役 同前伸 一

〒七〇二—八〇四五

岡山市南区海岸通二一六—一三

電話 ○八六—二六四—六八六六

FAX ○八六—二六四—六八六七

株式会社アライエンス岡山

代表取締役 内海 紀之

(北区営業所)
〒七〇〇—〇九八六

岡山市北区新屋敷町三丁目一九—二六

電話 ○八六—二四一—一六六六

FAX ○八六—二四一—一一一七

トラスト・クリーン株式会社

代表取締役 室山 宣英

〒七〇〇—〇九四一

岡山市北区青江四—二二—二〇

電話 ○八六—二五九—五五八八

FAX ○八六—二五九—五五七七

株式会社西日本マックス

代表取締役 松田 次歳

〒七〇二—八〇一一

岡山市南区郡三〇〇番地

電話 ○八六—二六七—九九五五

FAX ○八六—二六七—九九七七

安田産業株式会社

代表取締役会長 安田 猛男

〒七〇二—八〇三六

岡山市南区三浜町一—一—一八

電話 ○八六—二六三—三〇六一

FAX ○八六—二六三—三〇二九

株式会社中国住宅工業

代表取締役 奥村 奈巳

〒七〇一—〇一三一

岡山市北区花尻みどり町五—一〇七

電話 ○八六—二五五—九〇〇〇

FAX ○八六—二五五—九〇〇三

株式会社西日本アチューマツトクリン

代表取締役会長

藏本忠男

代表取締役社長

藏本悟

〒七〇三―八二四五

岡山市中区藤原五〇―一

電話 〇八六―二七二―八〇四二

FAX 〇八六―二七一―一〇五〇

株式会社eCOPプロジェクト

代表取締役

松多 広樹

〒七〇一―〇二二一

岡山市南区藤田八九〇―六

電話 〇八六―二九六―〇七〇六

FAX 〇八六―二九六―〇七〇八

株式会社光岡組

代表取締役

光岡 政勝

〒七〇〇―〇九四二

岡山市南区豊成一丁目一番一三三〇

電話 〇八六―二二四―五三〇五

FAX 〇八六―二二三―二五一〇

中野開発株式会社

代表取締役

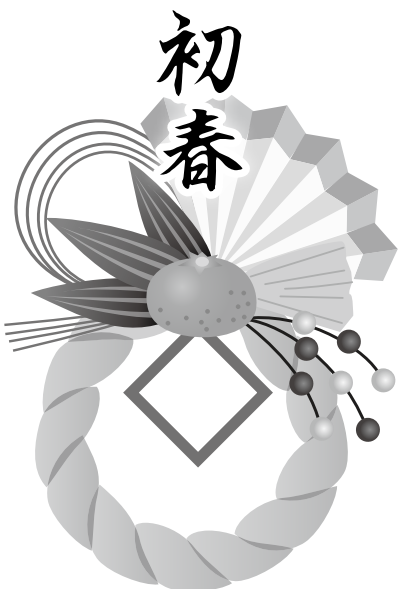
中野貞治

〒七〇一―二二四二

岡山市北区玉柏七五

電話 〇八六―三三九―二三一六

FAX 〇八六―三三九―三二七五



有限会社吉美

代表取締役

石原恵一

〒七〇一―〇一六五

岡山市北区大内田一三六七―一

電話 〇八六―二九三―一〇五二

FAX 〇八六―二九二―二〇二〇

コーワン株式会社

代表取締役

寺尾俊郎

〒七〇五―〇〇二二

備前市東片上五〇―一

電話 〇八六九―六四―三三三三

FAX 〇八六九―六四―三三三六

日生運輸株式会社

代表取締役

伊賀資耕

〒七〇五―〇〇二三

備前市伊里中五八八―一

電話 〇八六九―六七―二五五五

FAX 〇八六九―六七―〇四六八

有限会社豊田建運

取締役

豊田真爾

〒七〇九―〇七〇四

赤磐市沢原一五五二

電話 〇八六―九九五―〇〇〇一

FAX 〇八六―九九五―二二二二

倉敷企業合資会社

代表社員 岡本 靖磨呂
有限責任社員 井上正士

〒七二〇一〇八四二
倉敷市吉岡二九三一一
電話 ○八六一四二四一六四二九
FAX ○八六一四二二一九一九〇

有限会社和気環境サービス

代表取締役 松本公子

〒七〇九一〇四二一
和気郡和気町日室一三九
電話 ○八六九一九三一〇四七三
FAX ○八六九一九三一五五六

横山商事株式会社

代表取締役 横山忠彦

〒七〇一〇三二〇二
備前市日生町寒河二五五九
電話 ○八六九一七二一一三〇一
FAX ○八六九一七二一一三〇五

協同組合倉敷市環境保全協会

代表理事 岡井智之

〒七二〇一〇〇三八
倉敷市新田二三三二二一八
電話 ○八六一四二二一七三七一
FAX ○八六一四二二一五四二七

株式会社フルカワ商事

代表取締役 古川悦生

〒七二〇一〇八三五
倉敷市四十瀬三四三一一三
電話 ○八六一四二四一八〇二〇
FAX ○八六一四二七一三六九九

水島エコワークス株式会社

代表取締役社長 藤井和夫

〒七二二一八〇七四
倉敷市水島川崎通一―一四一五
電話 ○八六一四四七―三二五五
FAX ○八六一四四七―三二五七

株式会社ビーシー工業

代表取締役 富本敬三

〒七二一八〇五一
倉敷市中畝九―一二―三七七
電話 ○八六一四五六一三四二一
FAX ○八六一四五六一五八四三

株式会社美建ビルサービス

代表取締役 小林建雄

〒七二〇一〇〇一六
倉敷市中庄二二四八―四
電話 ○八六一四六三一―三五一
FAX ○八六一四六三一―七七九

株式会社田中商会

代表取締役 室山敏彦

〒七二〇一〇八〇三
倉敷市中島一三九五
電話 ○八六一四六五―三〇五〇
FAX ○八六一四六五―三〇五一

株式会社アースクリエイト

代表取締役 三好員弘

〒七二四―一二二五

小田郡矢掛町中一七〇

電話 〇八六六―八二―三〇三一

FAX 〇八六六―八二―三四〇〇

株式会社平松運輸

代表取締役 平松敬史

〒七一六―〇二〇七

高梁市川上町仁賀六二七

電話 〇八六六―四八―三五八八

FAX 〇八六六―四八―三二六一

株式会社三美産業

代表取締役 妹尾芳訓

〒七一六―〇二〇三

高梁市川上町三沢四三四二―二

電話 〇八六六―四八―二八七八

FAX 〇八六六―四八―二八七九

福栄産業株式会社

取締役 田中忍

(福栄産業物流センター)

〒七二二―八〇五五

倉敷市南畝七―一―三三

電話 〇八六―四五六―七七七七

FAX 〇八六―四五六―一四二二

坂川建設鋳業株式会社

代表取締役 坂川晃一

〒七一四―一四〇五

井原市美星町字戸一〇五五

電話 〇八六六―八七―二六二六

FAX 〇八六六―八七―二六二七

山陽興産株式会社

代表取締役 大本修身

〒七一六―〇〇四五

高梁市中原町一五四二―一六

電話 〇八六六―二二―一〇三五

FAX 〇八六六―二三―一三二六

内田工業株式会社

代表取締役 内田航

〒七二二―八〇五二

倉敷市松江三―二―四六

電話 〇八六―四五六―五八八八

FAX 〇八六―四五六―四五五二

有限会社藤充建設工業

会長 藤原浩司

〒七一五―〇〇一九

井原市井原町三五五七―二九

電話 〇八六六―六二―〇七一二

FAX 〇八六六―六二―〇三〇二

山陽環境開発株式会社

代表取締役社長 岩元達也

〒七一八―〇〇〇三

新見市高尾二三〇四―一

電話 〇八六七―七二―五四一五

FAX 〇八六七―七二―一七八〇

坂田碎石工業株式会社

代表取締役 近堂 申洋

〒七〇八一三六三二
久米郡久米南町山手六四五
電話 ○八六一七二八―二八一
FAX ○八六一七二八―二四六〇

株式会社新岡山工業

代表取締役 田口 芳美

〒七〇八一五二三
久米郡美咲町吉ヶ原一〇八〇
電話 ○八六八―六二―二七七五
FAX ○八六八―六二―二七七六

エコシステムジャパン株式会社

代表取締役 石川 統一

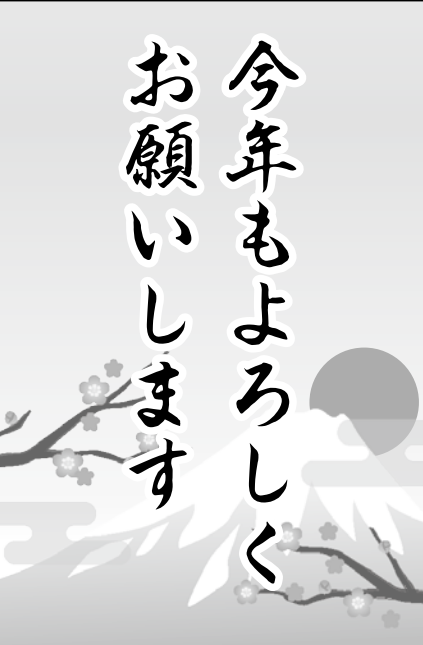
〒七〇八一五二三
久米郡美咲町吉ヶ原一〇四八―二
電話 ○八六八―六二―一三四一
FAX ○八六八―六二―一三四〇

株式会社廃棄物センター

代表取締役 河原 淳

〒七〇八一〇〇一三
津山市二宮八七〇
電話 ○八六八―二八―二〇五一
FAX ○八六八―二八―二二四八

今年もよろしく
お願いします



末沢建設株式会社

代表取締役 末澤 由博

〒七〇八一二二二六
津山市押入一二一九―七
電話 ○八六八―二六―一七三
FAX ○八六八―二六―一七二

株式会社ユアツク

代表取締役 赤本 裕

〒七〇八一五二三
久米郡美咲町吉ヶ原三九三―二
電話 ○八六八―六二―一五〇〇
FAX ○八六八―六二―一四七三

株式会社加藤興業

代表取締役 加藤 久明

〒七〇八一二二二六
津山市押入九二九―三四
電話 ○八六八―二二―五六三二
FAX ○八六八―二二―二五二四

有限会社フクイクリーン

代表取締役 福井 太郎

〒七〇七〇〇二四
美作市榎原下一四五
電話 ○八六八―七二―一一一九
FAX ○八六八―七三―〇四五五



株式会社 **西日本アチューマツトグリーン**



代表取締役 社長 **藏本 悟**

事業範囲

- 産業廃棄物処理業
収集・運搬
中間処理(脱水・選別・破碎・固形燃料製造)
- 一般貨物自動車運送事業
- リサイクル事業
建設汚泥の再資源化
流動化処理土・再生処理土・再生砂・再生碎石製造
- レンタル・リース事業
選別機(トロンメル・ふるい機)・脱水機
- 廃プラスチック類・木くず・紙くず・繊維くずの再資源化
固形燃料(RPF)製造
- 建設業
浚渫工事・土木工事・とび土木工事

本社 〒703-8245 岡山市中区藤原50-1
TEL(086)272-8042 FAX(086)271-1050
URL <http://www.e-nac.co.jp>
E-mail nac@e-nac.co.jp

倉敷営業所 〒712-8044 倉敷市東塚5-17-58
TEL・FAX(086)456-4433

東京営業所 〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町28番地
エクセル神田7F
TEL(03)3526-2477
FAX(03)3526-2466

箕島事業場 〒701-0206 岡山市南区箕島字小松露3678番
TEL・FAX(086)292-4647

赤磐工場 〒701-2225 岡山県赤磐市山口2131-4
TEL(086)957-4919
FAX(086)957-4922



〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原1125 TEL: 0868-62-1346 FAX: 0868-62-1345

エコシステム山陽株式会社【産業廃棄物・特別管理産業廃棄物・低濃度PCB廃棄物中間処理】

〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原1048-2 TEL:0868-62-1341 FAX:0868-62-1330

エコシステムジャパン株式会社【営業窓口・収集運搬】



〒702-8045 岡山県岡山市南区海岸通2丁目6-13 TEL:086-264-6866 FAX:086-264-6867

岡山砥油株式会社【産業廃棄物中間処理・再生油販売・セメント資源化】

DOWAグループは、地球を舞台とした事業活動を通じ、豊かな暮らしの創造と資源循環社会の構築に貢献します。



motivate our planet®